長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１３５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１１月２０日(月)

【雑感】寄る年波のせいか…？

私は休日も結構仕事（特にみんなの居場所の執筆？）をするんですが、折角の休みですから遊びもします。プラモデル作りだったり、読書だったり、色々やります。先日は録りためていたテレビ番組を早送り再生で見ました。録画再生なのでタイムラグが生じますが、この話題が高学年の子供達との共通の話題になるのが面白いですね。そうそう、「水戸黄門」も見ます。父が水戸黄門を好きで録画しているのですが、ついでに見ているのです。

最近もその機会がありました。水戸黄門と言えばこてこての時代劇で、コンセプトは「勧善懲悪」なのでしょう、非常に分かりやすい内容です。水戸のご老公の「助さん角さん、懲らしめてやりなさい！」に象徴されるように、悪事を働く者を懲らしめます。（個人的な意見ですが、「水戸黄門」とは反対に人の心の動きが面白い時代劇は「鬼平犯科帳」です、どうでも良いことですが…）

水戸黄門を見ていて、ストーリーを想像しながら最後は「この紋所が目に入らぬか～！」となると、スカッとするのですが、最近予期せぬことが起こります。感動して泣いてしまうのです。人には言えないのですが、このところ、感動的な場面で涙が出るんですよ。歳ですかねぇ。

最近再放送されている「水戸黄門」のストーリーは、何となく最近の家族像や子供像、親像を揶揄し、確実な変革を社会に要求している、そんな内容の様な気がします。「水戸黄門」では例えば、自分の子が悪さした、その時親は子供の首根っこ捕まえて先方に謝りに行くのです。「この度は、うちの息子が〇〇ちゃんに嫌な思いをさせまして、本当に申し訳ございません。」それに対して嫌な思いをした子供の親は「こちらこそ済みませんでしたねぇ、これからも仲良くしてやってください。」となります。

最近どうでしょうね？　お互い感激して涙を流すような場面はあるでしょうか。互いの思いに心を寄せる場面はあるのでしょうか？　私は担任させて頂いた子供達とずっと繋がっていたいと思います。そのためには、「勧善懲悪」「是々非々」を通したいと考えています。時代が変化しても「不易」は変わりません。加速度的に変化したとしても、人の心は相手を思いやることができます。「思いやり」等の、人の心の不易な部分はいつの時代でも変わらないものです。

【私の愛語録】　渋沢栄一（日本の武士、官僚、実業家、日本資本主義の父）

どんなに勉強し、勤勉であっても、上手くいかないこともある。
これは機がまだ熟していないからであるから、ますます自らを鼓舞して耐えなければならない。

シリーズ「自分を語る」#135

続いていた余震が小さくなってきて、私たちは母屋に戻り食事、風呂にも入って一息ついていました。４月１５日（金）午後１０時です。この時、私たちの意識の中には、地震そのもの大きさを反芻することと、こんなに大きな地震を今後経験することがあるだろうかという、何というのでしょうか「こんな地震は一生のうちに一度経験できるかどうかのこと」というような、貴重な経験とでもいう妙な感情が沸いていました。更に、「こうして段々落ち着いていくのだろう。」という、安堵にも似た感覚がありました。しかも私は次の日、土曜日は荒尾第一小学校での初めての授業参観で、そこに集中しなければならないということもあり、正直それを考えるとまた「学校に行きたくない」的な感情が湧き上がってくる有様でした。

家族の中にも安堵があったようです。迂闊だったのかもしれません。家族全員、１階で寝ていました。私も、２階の部屋を片付けていなかったので、やむを得ず１階で寝ていました。ボ～ッとしながら天井を見つめ、眠くなるのを待っていました。いつまで経っても眠くなりません。次の日を考えるとアルコールの力に頼る訳にもいかず、結局眠れないまま午前になっていました。

４月１６日午前１時。本震発生まであと２５分。

１４日に起きた地震と仕事の事を考えると気が重かった私、結局その時まで起きていました。自分自身のこれまでの歩みを振り返るような時間だったと思います。こんな時の思考は負のスパイラルに陥ることが多いですね。知らず知らずのうちに、私の精神はどん底に近かったのではないかと振り返っています。

午前１時２５分地震発生。

私は居間で寝そべっていました。すると縦揺れが襲ってきました。不気味な音と共に、床から跳ね上げられるような衝撃でした。しかもそれが１４日の地震と比べると長いのです。続いて横揺れが襲ってきました。前の地震とは揺れのレベルが違います。まだ寝ていなかった私は意識がはっきりしており、揺れの視覚的映像が今でも脳裏によみがえります。もう、地震の時は「されるがまま」と思っていましたので、とにかく揺れが収まるのを待ちました。５分程度だったのでしょうかねぇ。私には１０分にも２０分にも感じました。揺れが収まってやることは同じです。全員の無事の確認と外に出る事でした。

外に出ると前震同様、ご近所さん方が出ておられ、口々に「怖いねぇ、また続くのかな？」等と会話をしています。前震との比較から、どこかに被害が出ているのではないかと母屋とその周辺を確認しました。案の定、亀裂が大きくなっていました。更に、近所の様子を懐中電灯で見て回りました。我が家のある地区は古い住宅と新しい住宅が入り混じり、更には４０年ほど前の住宅地なので、路地が複雑に入り組んでいました。大きな通りまで出るのに１本のルートしかなく、その道沿いのブロック塀が崩れていることが分かり、ご近所さんと一緒に朝からそれを片付ける事だけ決めました。

午前２時頃でしたでしょうか。私は校長先生に電話を入れてみました。こんな夜中にかけていいものだろうかとビクビクしながらかけたことを思い出します。でも、２回３回かけても、繋がることはありませんでした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）